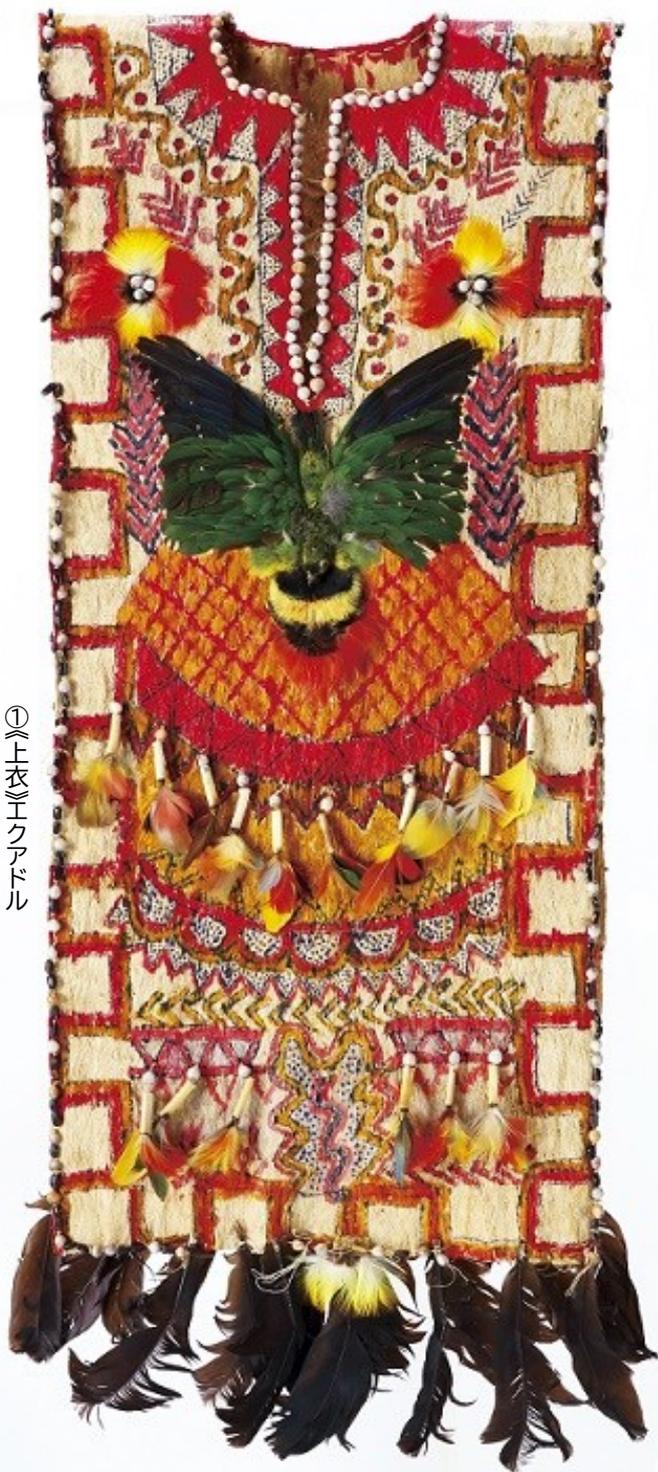


# ビーズ

「つなぐかざるみせる 国立民族学博物館コレクション」



①《上衣》エクアドル

※個人蔵以外はすべて国立民族学博物館蔵

National Museum of Ethnology Collection : Beads in the World

2022年11月15日(火)～2023年1月15日(日)

開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)※毎週金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

休館日：月曜日(ただし1月9日は開館)、11月24日(木)、12月29日(木)～1月3日(火)、1月10日(火)

入館料：一般800円(640円)、大学生640円(510円)、高校生・60歳以上400円(320円)、小中学生100円(80円)

\* ( )内は渋谷区民の入館料\*土・日曜日、祝・休日は小中学生無料\*毎週金曜日は渋谷区民無料\*障がい者及び付き添いの方1名は無料

★ビーズ割引★入館日当日(ビーズ)のみさまざまな部材に穴を開け、複数個を糸などにつないだものを身に着けて来館されたお客様は、通常料金から割引でご入館できます。割引の併用はできません。

主催：渋谷区立松濤美術館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団



ビーズは、さまざまな部材に穴を開け、糸などでつないだ人類最古の装飾品のひとつです。その素材は土、石、ガラスと多様であり、各材質を生かした仮面、衣装、装飾品、人形が世界各地でつくられました。

ビーズをつくり、身につけることは、地域や時代を問わず普遍的におこなわれる人類の営みでした。人類が古来より積み重ねてきた歴史や文化の一端がビーズには凝縮されているのです。本展は、国立民族学博物館所蔵の資料を中心に古今東西のビーズが大集合します。

美しく、時に力強い魅力を放つビーズをとおり、世界の環境、文化、歴史の違いと多様性を理解する機会となるでしょう。一粒から無限に広がるビーズの世界をご堪能ください。

## ビーズとは何か

人類は、さまざまな時代、地域で多様な素材でビーズをつくり、身につけてきました。ビーズを一言で定義すると、「さまざまな部材に穴をあけ、それをつないだもの」です。そのように考えると、普段ビーズだと思っていなかった身の回りにある日用品が実はビーズであったり、穴をあけてつなぐだけでさまざまなモノがビーズになりえることに気が付くでしょう。

ビーズの概念に揺さぶりをかけるところから、本展ははじまります。



②《育児用お守り》南アフリカ  
使用済みの注射針のカバーに穴をあけてつくられたお守りです。

## 多様な素材

日本の普段の生活の中で馴染み深いビーズといえば、プレスレットやネックレス、バッグなどにあしらわれたガラスやプラスチック製のビーズを想像するでしょう。

しかし、それだけがビーズではありません。

世界を見渡すと、ビーズは驚くほど多様な素材でつくられています。鳥の羽根のように鮮やかな素材はもちろん、植物、卵殻、さらには動物の歯や骨、ウロコでもビーズはつくられました。



③《壁飾り》ブラジル  
世界最大級の淡水魚といわれるピラルクの鱗が、白い部分に使われています。

## あゆみ

ビーズの素材がどのように流通し、伝播したのか。そのあゆみをたどることは、すなわち人類のあゆみをたどることにつながります。

本セクションでは、貝、石、ガラスでつくられたビーズのあゆみに注目します。特に、「ガラスの道」のセクションでは、古代オリエント、ヴェネツィアなどでつくられたガラスビーズを紹介し、人類とともにガラスビーズがたどった歴史を振り返ります。

## つくる

ビーズはどのようにつくられるのでしょうか。ここでは、素材に穴をあけるための道具や、ビーズの製作過程を映像でわかりやすく紹介します。



④《ミイラのビーズマスク》エジプト  
個人蔵

古代エジプトでは、青緑色の焼き物であるファイアンスを素材としたビーズが広くみられました。



⑤《首飾り》ボツワナ

ダチョウの卵の殻と木の実に穴をあけてつくったビーズをつなげたサンの首飾りです。

# ビーズで世界一周

人類は、およそ12万年前より世界各地でビーズをつくりつけてきました。長い歴史の中で地域を広げながら育まれたビーズのかたちは、多種多様、千差万別です。また、単独の素材を使用するだけでなく、複数の素材を組み合わせ、全身をビーズでまとう衣装も各地域でつくられました。一方で、さまざまな地域におけるビーズの在り方をみると、必ずしもファッションや装飾を目的とするためにビーズが使用されていたわけではないことがわかります。ビーズを魔よけや祈禱の儀式で身につける地域や、自身のアイデンティティを表現するためにビーズを身体にあしらう地域もあります。その役割も地域や民族によって異なるのです。

本セクションでは、オセアニア、アメリカ、アフリカ、アジア等でつくられた世界のビーズが一堂に会します。一粒のビーズに凝縮された世界各地の文化、歴史、思想を体感ください。



## 北アメリカ

上:⑦《手袋》アメリカ合衆国  
下:⑧《靴》アメリカ合衆国  
手袋や靴もビーズで飾られました。



## オセアニア

⑥《首飾り》フィジー  
クジラの歯をつないでつくられた首飾りです。



## アフリカ

⑫《儀式用衣装一式》

コンゴ民主共和国

貝、牙、羽根といったさまざまな素材をふんだんに使用した衣装です。



## アフリカ

⑪《女性用婚礼衣装》南アフリカ

ズルーの結婚式の衣装です。大小さまざまなビーズで全身を覆っています。



## 中央・南アメリカ

⑩《祭儀供物用仮面》メキシコ

メキシコ北部のウィチヨルの仮面です。木材に蜜蝋でビーズを貼り付けています。



## 北アメリカ

⑨《ハロウィンの首飾り》

アメリカ合衆国 個人蔵  
ニューオーリンズのハロウィンパーティーで使用した首飾りです。

**グローバル時代のビーズ**  
現代でもビーズは進化しつづけています。現代日本のビーズ産業について紹介するとともに、日本の現代作家によるビーズ作品も展示します。グローバル時代に花咲くビーズ作品の競演をお楽しみください。



## 東南アジア

⑮《女性用腰布》インドネシア

タカラガイを縫い付けることでひとつのモチーフをつくりあげています。



## 東南アジア

⑭《未婚女性の衣装》タイ

貝やコインなどのビーズがあしらわれているアカの衣装です。



## 南アジア

⑬《首飾り》インド

インド北東部にあるナガランド州は、さまざまな少数民族によって形成されています。そのひとつであるコニャックがガラスや貝でつくった首飾りです。

★イベント 事前申し込み制、抽選

①記念講演会 「人間にとってビーズとはなにか」

11月19日(土)午後2時〜(約1時間30分) 地下2階ホール  
講師：池谷和信氏(本展監修者、国立民族学博物館教授)

※無料(要入館料) ※定員40名

②シンポジウム 「ビーズからのメッセージ 一つなくかざるみせる」

12月10日(土)午後2時〜(約2時間) 地下2階ホール

出演：佐古孝子氏(ビーズ織り作家)、中村香子氏(東洋大学教授)、川口幸也氏(元立教大学教授)、池谷和信氏

※無料(要入館料) ※定員40名

★イベント 抽選申し込み方法

往復はがき、またはメール(event@shoto-museum.jp)に下記必要事項をお書きの上、「ビーズイベント」までお申し込みください。①(参加される特別講座の番号)②が③(郵便番号)④住所⑤氏名(ふりがな)⑥日中連絡のつく電話番号

※1通につき1名または1回のお申し込みにつき1名のみ申し込み可。

★その他イベント 事前予約は必要ありません

◆ワークショップ「ビーズでミニクリスマスリースをつくろう」

いろいろな素材と形のビーズをミールでつないで、小さなクリスマスリースをつくりまわす。

12月17日(土) 地下2階ホール

A / 午前11時〜午後1時

B / 午後2時〜午後4時



※無料(要入館料) ※各回材料がなくなり次第終了 ※作業時間：約15分  
※中学生以下は保護者の同伴をお願いします ※画像はイメージです。

◆展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

11月18日(金)、11月26日(土)、1月8日(日) 午後2時〜約40分間

※無料(要入館料)

◆館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

11月18日(金)、11月25日(金)、12月2日(金)、12月9日(金)、12月16日(金)、12月23日(金)、1月6日(金)、1月13日(金)

各日午後6時〜約30分間 ※無料(要入館料) ※各回定員15名

開催概要

ビーズ 一つなく かざる みせる 国立民族学博物館コレクション National Museum of Ethnology Collection : Beads in the World

会期：2022年11月15日(火)〜2023年1月15日(日)

開館時間：午前10時〜午後6時 \* 毎週金曜日は午後8時まで(いずれも入館は30分前まで)

休館日：月曜日(ただし1月9日は開館)、11月24日(木)、12月29日(木)〜1月3日(火)、1月10日(火)

入館料：一般 800円(640円)、大学生640円(510円)、高校生・60歳以上400円(320円)、小中学生100円(80円)

\* ( )内は渋谷区民の入館料 \* 土・日曜日、祝・休日は小中学生無料 \* 毎週金曜日は渋谷区民無料 \* 障がい者及び付き添いの方1名は無料

★ビーズ割引★

入館日当日にビーズ(さまざまな部材に穴を開け、複数個を糸などでつないだもの)を身につけてご来館されたお客様は、通常料金から2割引でご入館できます。割引の併用はできません。

主催：渋谷区立松濤美術館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団

会場：渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14

電話：03-3465-9421 HP: <https://shoto-museum.jp>

※会期や開館時間、イベント等変更する場合があります。

最新情報は当館ホームページ等でご確認ください。

交通案内

●京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分

●JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません

次回展覧会のご案内

■2023 松濤美術館公募展

■同時開催 サロン展「写真のノスタルジア」(仮)

2023年3月22日(水)〜28日(火)



石田喜一郎《夏座敷/summer rooms》1925年 当館蔵

■ 報道関係のお問い合わせ ■

広報担当：西・木原・野城 メール：[pr-sma@shoto-museum.jp](mailto:pr-sma@shoto-museum.jp) 電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

展覧会担当：野城・平泉

\* 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。\* 画像のご利用後、データは破棄してください。

\*画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。\* 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。

\* 掲載後、見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。